

山武市転倒骨折予防プロジェクト 令和4年度事業計画

事業背景

- 要介護者数や医療費等の増加を抑制するための介護予防事業の拡充が求められていた。
(令和4年3月現在の人口:49,226人、65歳以上:17,975人、高齢化率:36.5%)
- 平成28(2016)年度から、国立大学法人筑波大学との共同研究を開始し、個人レベルの医療・介護データを用いて、市の特性に合った介護予防事業の課題抽出、事業構想、具体化を行ってきた。
- 研究成果を発展させるかたちで、令和3(2021)年度より、生涯現役を応援し、転倒骨折を予防するために、地域の関係機関が連動する「転倒骨折予防プロジェクト」を開始した。

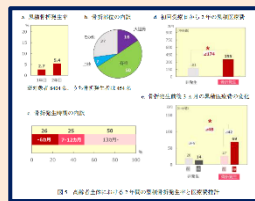
事業目的

- 転倒骨折予防と自己管理法の習得・定着によって、「いつまでも転ばない状態」を目指す。
- 「自分らしい現役生活」が見つかりやすいまちを目指す。
- 転倒骨折を予防し、社会保障費の適正化につなげる。

事業連携図

⑦転倒骨折実態調査 [データ分析基盤]

市に設置したデータ分析基盤を活用し、転倒骨折発生調査を行い、予防対策の立案、効果発現の加速化を図る。



⑥通所Cモデル事業

転倒ハイリスク者を対象に、運動療法や対処法の実践により、セルフマネジメントの習得を短期で図るモデルを確立させる。



⑤わたしの健康プラス [地域ハブ事業]

生活機能に特化した測定会を開催し、転倒骨折リスクを把握し、地域の「目」ネットワークを形成する。

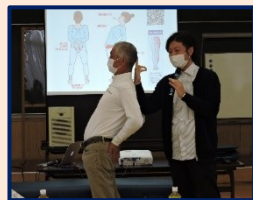


事業連携機関

- ・ 姫島クリニック
- ・ 山武長生東隅地域リハビリテーション広域支援センター
- ・ 山武市内におけるリハビリテーション職のつどいの会

④安心安全就労サーベイ

「働いて健康になる就労」を支援する、生活機能測定会(約100名)と、安心就労スキル講習を開催予定。



さんむ医療
センター

高齢者福祉系

地域包括
支援
センター

生涯現役
人口の増加

～ 転倒骨折予防
プロジェクト ～

筑波大学

図書館
・
社会福祉
協議会

シルバー
人材センター

①定例会 [関係者連動事業]

関係機関と、既存事業の「連動」を重視した定例会を、オンラインで、月1回実施。



②生涯現役コンセプト会 [関係者連動事業]

「生涯現役像」を描くワークショップを開催し、進行管理のためKPIを確立させる。(全3回開催予定)



③いきいき教室・はなまるサロンさんむ

老人クラブに、専門職を派遣し、セルフマネジメントの習得を支援。翌月に、集いの場を設け、生涯現役の情報提供を行う予定。

